上下水道分野で新たな人材育成・確保に期待

～日水コンが早稲田大学商学部に「水」ビジネス論で寄附講座～

日水コンは、早稲田大学商学部の2020年度春学期カリキュラムとして寄附講座『「水」ビジネス論』を開講した。新型コロナウイルス問題の影響でオンライン授業を余儀なくされる中、５月12日から授業も開始、社会科学分野の学生に対し、上下水道技術やマネジメントを司る「知」の営為を披露するとともに、上下水道分野への「誘（いざな）い」も企図した多様なカリキュラム、多士済々の講師陣により、７月28日まで毎週火曜日に授業が行われる予定だ。本紙では、同社関係者から寄附講座の目的やカリキュラムについて取材するとともに、同大学で上下水道分野を主たる研究領域にしている水循環システム研究所所長の高瀬浩一・同大学商学学術院教授のインタビューを掲載した。

「水」ビジネス論開講の狙いと概要

『「水」ビジネス論』は、副題に～あなたのまわりの「水」。その未来を考える～と冠していることからも窺えるように、「水」に関わる産業・ビジネスを本質論で整理し、根本理解を目指すとともに、その「魅力」をアピールする狙いがある。

講義要綱の冒頭には「わたくしたちは日常的に当たり前に水を使っているが、それは当たり前のことだろうか？ あらためて〝水〟を使う生活を考えてみよう」と書かれており、さらに、▽水道・下水道は「地方公営企業」というビジネスによって成立▽ダイナミックな自然の水循環の中に人工的な水道・下水道システムが存在する―と示した上で、▽その役割や位置づけ、運用・経営面の仕組み、上下水道のサプライチェーンを担う企業の役割はあまり知られていない―と指摘し、「未来を担うあなたに、現代における水道・下水道というインフラ運営のあり方、投資のあり方に関心を持ってもらいたい」と投げ掛けている。

このコンセプトに従ってカリキュラムが組まれ、間山社長をはじめとする日水コン関係者に加えて、神山守・東京都下水道局技監ら自治体関係者、メーカーや銀行関係者、さらにはJICA幹部も講師に名を連ね、「水」ビジネスという共通項を持ちながら実に多様なメニューが用意されている。

今回の寄附講座実現について同社関係者は、「早大からの打診に近いニュアンスの情報提供をいただき、これは当社の思うところとも合致する好機と判断した」とのことで、その背景には、「当社社員の9割は、技術者、いわゆる理系だが、現在携わっている仕事の多くは、上下水道の広域化・広域連携の流れもあって財務・経済の素養も求められ、決して土木屋だけで務まる仕事ではない」という社会科学系分野からの人材確保が視野に入っているようだ。

ただし、「当社へのマンパワー確保という面もあるが、上下水道分野の魅力を知って将来の進路として意識してもらえればという思いの方が強い。受講された学生さんが社会に出て上下水道分野で仕事をするようになって、当社と接点があればクエストは頂戴したが、あくまでも当社がイニシアチブを取った」とのこと。また、「柔軟なアイデアを引き出すため、検討チームには若手社員も多数参加してもらった」という。

本来、4月7日から15回の講義を行う予定だったが、コロナ問題のために開講が約1カ月遅れるとともに、授業形態もオンラインによるものに変更になった。このオンライン授業は、1週間前に収録したものを録画配信する形を取っており、第1回の「水」概論（水道編）の講義を担当した水道事業部の若松亨二・副事業部長は、「そもそも学生相手の授業は初めての経験でしたが、ある意味自分の世界を淡々とお話しました。相手の反応が見えないもどかしさはありましたが、自分にとっても貴重な経験になりました。普段当たり前に使っている用語についても、改めて、この言葉だけで伝わるだろうか」と考えてみました」と振り返る。一方、同（下水道編）を担当した下水道事業部の小南太郎・事業部長は、「商学部の学生が多い中で、どのように紹介すれば水インフラに興味を持ってくれるかを考えました。上手く伝わっているとよいのですが…」と振り返っている。

本質的理解へ多様なメニュー

上下水道界の魅力も発信

若松・小南両氏が口にした「もどかしさ」、「上手く伝わっているか…」という思いは社内の関係者で共有しているようで、既に来年以降の「継続」という声も出ているとのこと。「学生の目を上下水道界にしっかり向けてもらうためにも継続性は必要。特に来年以降対面による授業をできれば若手社員にやってもらいたい」と若松氏も意欲を示す。

同講義は、商学部が主導の下、政治経済学部をはじめ、全学部の学生が聴講可能になっており、約70人が履修したという。同大学水循環システム研究所主任研究員の佐藤裕弥・准教授によると、第1回の講義終了から3時間以内に20人程の学生から質問や意見が寄せられたとのこと（別掲記事参照）。「水」ビジネスの本質的理解へ好スタートが切られたようだ。

オンライン授業に臨む間山社長

カリキュラム・スケジュール

1：第１回（５月12日）：「水」概論
2：第２回（５月19日）：日水コンの取組み
3：第３回（５月26日）：公共事業者の取組み１
4：第４回（６月２日）：金融機関の取組み
5：第５回（６月９日）：メーカーの取組み
6：第６回（６月16日）：公共事業者の取組み２
7：第７回（６月23日）：水インフラ持続への取組み
8：第８回（６月30日）：振り返り、まとめてＱ＆Ａ
9：第９回（７月７日）：海外水ビジネスの展望
10：第10回（７月14日）：災害への対応
11：第11回（７月21日）：国内水ビジネスの展望
12：第12回（７月28日）：優秀レポート発表と表彰、本講座の講評

トップメッセージ

寄附講座開設にあたって

日水コン代表取締役社長 **間山 一典**

わが社は、これまで術者集団であったが、これからは、広域化、設計・モノづくりの技術に加えPPPなど、事業への関りを深化させていきたい。水コンサルタントのこれまでとこれからと題して、私の想いを話したが、伝わったかどうか、評価は学生にお任せしたい。

地域の水インフラの持続には、料金や使用料が何に使われ、どこに行っているか、地域還元率のような視点も必要だし、水インフラの仕事はここまでと自らタガをはめることはない。経営や経済学との接点は、技術者としての刺激になるし、五感を磨くことになるはずである。

事業への関わりを深化

「持続」へ地域に寄り添い

広域化、PPPの先には、ユーティリティ相互の統合（範囲の経済）や付帯事業との抱き合わせもあるはずで、無限の可能性がある。地域に寄り添って、水インフラの持続を考える、ある意味ワクワクするような仕事で、若い人たちの可能性を羨ましく思う。

寄付講座『「水」ビジネス論』開設の目的と期待

早稲田大学水循環システム研究所所長・商学学術院教授 **高瀬 浩一** 氏に聞く

―はじめに、早稲田大学の社会科学部門と上下水道界の主要な接点になっている水循環システム研究所の役割についてどのようにお考えか伺えますか？

高瀬教授 既に設立から3年程が経過しましたが、私も設立時からメンバーに名を連ねています。私の専門は経済学で、主に途上国経済や開発援助をテーマに研究活動を行っています。当然、上下水道もその中の重要な要素になります。国内の上下水道界とのご縁は水循環システム研究所の初代所長を務められた山本哲三先生（商学部名誉教授）主催のフォーラムに参加したことで改めて興味深い分野であることを再確認しました。研究所の設立も社会の要請に応える時代の要請に応えることが今回の寄附講座へのモチベーションにもつながったようですね？

社会科学的役割を見据え

上下水道も進路の選択肢に

高瀬 今までは早稲田大学においても主に理工系部門が上下水道分野に人材を供給してきたわけですが、今、申し上げたような課題認識からしても、そろそろ社会科学系の学生諸君にも上下水道を学んでほしいと思っていました。実は、商学部は学内でも最も寄附講座を多く設けており、学部で10講座、大学院やビジネススクールも加えると20程の講座がありますが、これの講座は原則分野が異なるものとしていますので、上下水道分野もこの中に加わってもらえればとかねがね考えておりました。今回、日水コンさんが講座を立ち上げていただき、この分野の魅力と重要性を知る者の一人として大変心強く感じています。

―『「水」ビジネス論』で特に期待されることは？

高瀬 上下水道部門を数多ある就職先の選択肢の一つとして学生達に意識してもらえるようになればと期待しています。この認識から、多くの学生たちに関心を持ってもらえればと考え、この講座については政治経済学部の縣公一郎先生にもご協力をいただいて政経学部をはじめとする全学部の学生が履修できることとしました。私の研究室の学生も、インフラ全般には意識を持っていますが、交通や鉄道、電力などが主ですので、加えて「水」に関する造詣も深めてほしいと考えています。やはり、学生たちも知らない世界に対しては興味も湧きにくいですから、興味の対象となるべく学生たちにとっての上下水道産業界のイメージアップにもつながればと思っています。さらに言えば、社会科学系の学生にとって上下水道は知っておくべき「素養」です。であれば、その「現実」に触れることは大変意義深いものになるわけです。

―日水コンという企業に対する印象と実際に講義を聴かれてのご感想はいかがですか？

高瀬 ある意味地味ですが、質実剛健の良さが感じられる企業ですね。まさに上下水道界を支えている印象です。実は、今回のコロナ問題の影響で春学期はオンライン授業となったために予定されていた寄附講座を取り止める企業が少なからずあったのですが、日水コンさんにおかれては継続を決断されて深く感謝しております。オンライン授業となったことで、将来的には一般の人にも見ていただけるようになればと思います。私自身、授業を拝見して、やはり、面白いわけですよ。上下水道分野の専門家が学生でも分かるレベルまで下りて来ていただいている細やかなご配慮にも感謝です。

―最後に、上下水道分野への貢献ということを念頭にご自身の抱負を伺えますか？

高瀬 やはり、何よりも客観的事実を周知するという社会科学的役割を果たしたいですね。私自身の研究活動としては、行政学や経済学の学術的なアプローチを上下水道というフィールドにおいても積極的に進めていきたいと考えています。基盤の強化へ課題が山積する上下水道界ですので、社会科学分野からの学術的アプローチがその解決に向けて多大な示唆をもたらすことには大いに期待が持てます。今後の研究・教育活動に注目したいと思います。

「歴史」「役割」分かり易く

講師の神山守・都下水道局技監談

学生に下水道の仕組みを改めて説明

今回、日水コンさんから早大寄付講座での講義の話をいただき、若者にせっかくの機会ですので、快くお引き受けしました。

講義では、下水道の「歴史」や「役割」等を分かり易く説明するよう心掛けました。

①「歴史」では主に、新型コロナのような感染症であるコレラ等の対策として下水道整備が進められたこと、②「役割」では、下水道というと真っ先にトイレを連想する人が多いですが、街を浸水から守る重要な役割も担っていること、③「仕組み」では、水の汚れの原因は、トイレより台所や洗濯等の排水が大きく、これらの排水を浄化する方法は化学的処理ではなく、微生物が行っていることなどを説明しました。

さらに、対象が商学部の学生ですので、地方公営企業の適用や、下水道事業と水道事業の相違として、下水道使用料は公債権となること、下水道の究極目的が「公共用水域の水質保全」であることから、接続義務（使用の強制）が生じることを強調しました。

最後に、学生が商社等に就職したら関わる可能性もある国際展開として、都が支援したマレーシアの下水道プロジェクトやSPR工法などの話も織り込みました。

目の前に学生がいない中での講義はやや違和感がありましたが、多くの学生が下水道の役割を理解していただけたら幸いです。

芝浦水再生センター

『「水」ビジネス論』を受講して

～第1回目の講義直後に寄せられた学生達の反応～

5月12日にオンライン授業で行われた『「水」ビジネス論』の第1回講義終了後には、受講した多くの学生から感想や意見が寄せられたという。

その内容を確認した早稲田大学水循環システム研究所主任研究員の佐藤裕弥・同大学准教授は、「講義終了から2時間もしないうちに、20人以上の学生から感想なり意見があり、その反応の速さに驚かされた」と述べ、学生の上下水道分野に対する関心の高まりは、ある意味想定を上回るものだったようだ。

全12回の講義のうち、8回目の講義では、佐藤准教授と日水コン関係者による「まとめ・振り返り、Q&A」も予定されており、講義の進展とともに上下水道の今後に向けた活発なディスカッションも期待できそうだ。

関心の高まりは顕著

nissuicon
潤いある未来へ
ISO9001
ISO14001
ISO27001
ISO55001
公益社団法人 全国上下水道コンサルタント協会会員
株式会社 日水コン
代表取締役社長 間山 一典
〒163-1122 東京都新宿区西新宿 6-22-1 新宿スクエアタワー
TEL 03-5323-6200（代） FAX 03-5323-6480
http://www.nissuicon.co.jp/
2020
健康経営優良法人
Health and productivity
ホワイト500
当社は「健康」を経営課題としてとらえ 会社と社員そして家族がより安心して自分らしく働ける会社を目指していきます